

日高山脈の山のトイレについて 現状と問題解決案

日高山脈ファンクラブ 事務局

【日高山脈のトイレ問題の特徴】

日高山脈は南北150km、国定公園の範囲内だけでも10万ヘクタールに及ぶ広大な面積を有する。本州や大雪山のように整備されている登山道は少なく、登山者数が限られていることもあり、今まで山岳環境汚染は問題視されてこなかった。

しかしそのなかであって、深田百名山の「幌尻岳」、深田クラブ二百名山の「カムイエクチカウシ山」や高山植物で知られる「アポイ岳」など特定の山岳では、登山者が集中することにより山岳環境への負荷が問題化しつつある。また、夏道が整備されている北日高また南日高山系へも毎年数百人程度の登山者が見られ、さわやかなはずの山で他人の用足し跡を見なければならぬ不快感、水源地の汚染、踏み分け道が伸びることや富栄養化による高山植物への被害など、多くの問題が発生する恐れが出てきた。

さらに日高山脈の特徴として、登山口付近の排泄汚染が挙げられる。登山口が集落から数kmから数十km離れた山奥にあることが珍しくなく、また山小屋などが整備されている登山口に限られるため、登山口で用足しをしてから出ようとする登山者が多いためである。

一般登山の対象となる主要山岳は、ほとんどが国有林（アポイ岳周辺は道有林）であり、国定公園指定地であるとともに、山脈中央部は林野庁により日高山脈中央部森林生態系保護地区に指定されている。幸い、日高・十勝両支庁には国定公園担当職員が配置され、当該市町村による国定公園対策協議会も設置されている。また日高支庁管内（道有林のみの様似町を除く）にあつては、北海道森林管理局が日高流域管理システム制度を定め、国有林・民有林が一体となって教育の場としての森林の活用等も含めた森林活性化プログラムをすすめている。さらに山脈は、日高・十勝・上川管内18市町村にまたがっており、1つの町内で完結する登山もあるが、複数町にまたがって登山をする場合もある。このように複数の自治体・組織をまたいで山脈が存在するため、1つの町で解決に取り組んでもその効果は低くならざるを得ない。

そのため、トイレ設置や維持、携帯トイレの回収処理などのトイレ対策は、国または道が主体的に実施するほうがスムーズに進むだろう。もちろんその際、地元市町村との協力体制を築いていく努力が必要となることは言うまでもない。

【問題解決にあたって】

1. 山岳環境への負荷を軽減するために

トイレ整備にあたっては、山岳環境への負荷をいかにして軽減させるかが第一の課題であろう。よって広大な日高山脈にあつては、統一された改善策をとるのではなく、個々の山岳や、登山口と山中など、区分けを行った上で適した処理方法を検討する必要があるのではなかろうか。以下にもう少し具体的な方策を述べる。

・現在登山者が集中している山岳（幌尻・アポイ・カムエク等）へのトイレ整備は、他の

山岳よりも優先的に行ってもよいのではないかと思う。ただしオーバーユースなどの問題がある場合は、トイレ整備だけではなく入山規制なども視野に入れた総合的な対策が必要と思われる。

- ・日帰り登山が可能な山岳は、登山口へのトイレ設置をすすめることにより、山中での排泄汚染を低下させる可能性がある。登山口へは、林野庁管轄または電力会社所有などの林道があり、自動車での運搬が可能なため、工事用ポータブルトイレの設置等経費をあまりかけない整備方法も検討すべきであろう。

- ・山小屋や休憩小屋など既存建造物がある場合は、環境に負荷を与えない（バイオ・貯留式は設置維持に係る費用等も勘案しながら検討）トイレを併設する。ただし、トイレを設置しても定期的な清掃をしないとトイレを使用しないでトイレ周辺の草むらで排泄を済ませてしまう登山者が出てくるため、定期的な維持管理や登山者への啓発も併せて実施する必要がある。

- ・稜線や沢などトイレ設置が不可能な箇所は携帯トイレを使用する等、登山者自身による処理を第一にすすめるよう登山者への啓発を進める。使用済みの携帯トイレは主要登山口で回収できるように、北海道庁が地元市町村と協力して回収処理体制づくりをするよう要請が必要ではないか。

2. 経費

第二の課題は設置維持経費をどの程度まで抑えられるのかである。トイレ整備や携帯トイレを含めた処理費用の一部は受益者（利用者）負担すべきと考えるが、その徴収方法が今後の課題である。

3. 意識・マナー向上

さらに、登山者の意識・マナー向上も課題である。登山者への啓発・教育も重要ではないかと思う。

4. 携帯トイレ改良の要望

現在の携帯トイレは、臭いが気になることから利用者が増えないのではなかろうか。さらなる消臭化等製品の改良をメーカーに、行政機関と共に要望していくことも必要と思う。

【結びとして】

現実的には、1つの団体の活動で問題解決を図ることは難しい。すべてを行政任せにする気は毛頭なく、行政と民間とが全道的な広がりのもと、トイレ問題を解決するため協働していくことが必要である。

*

*

*

*

*

▲▲□□▲▲▲▲□□□□▲▲□▲▲▲▲□□□